

子どもの安全
—水辺の活動と安全・水難事故防止啓発活動—
海と日本プロジェクト

2021年活動報告



一般社団法人

吉川慎之介記念基金

Shinnosuke Memorial Foundation

プロジェクト概要

プロジェクトの実施目的

2020年度に実施したライフジャケット検討委員会で、子どもの成長段階と川、海、プールなどで、各シーンに相応しいライフジャケットの必要性を確認できました。

例えば、

- ・子ども用のライフジャケットの購買数は右肩上がりで増えていること、
- ・一方で水難事故での死亡件数は横ばいの状態は続いていること
- ・新型コロナウイルスの影響による生活制限下で自然活動の関心は高まっていること
- ・水辺の活動と安全の知識・情報共有は社会全体の課題であること・・・

こうした状況を踏まえて、

2021年は、子どものライフジャケット普及プロジェクトと子どもの水辺安全セミナーを通じて、地域や各活動団体と協力・連携し、水辺の活動と事故防止と子どもの事故予防の正しい情報と理解を広め、受講者やプロジェクトに関わった人々が、それぞれの立場で地域や現場で活動を展開していくことを目指しました。

プロジェクトの柱

1. 子どもの水辺の安全セミナーの実施
2. 子どものライフジャケット普及プロジェクトの推進
3. 活動団体のリサーチおよびネットワーク化（普及啓発に必要な活動）

1. 子どもの水辺の安全セミナー報告ー1

2020年に続き、新型コロナウイルスの影響下でも、
オンライン開催によって予定以上のセミナーを実施することができました。
学生の皆さんと水辺の活動と安全に関する機会を多くいただきました。

（実施地域・団体）

- ① 子どもの水辺安全セミナー海と日本プロジェクト2021
「幼児教育の現場から発信する水辺の安全～楽しく安全な水遊びをどう伝えるか～」

場所：オンラインセミナー

日時：2021年6月26日

参加者：50名

- 子ども安全管理士協会YOKOHAMAとの共催事業。多くの現場担当者が参加し有意義な会となった。
- ゲスト講師の猪熊先生、土橋先生のトークセッションレポートを制作
- 受講者（医療従事者）が担当する地域自治体の保育施設向けの研修で、講師の土橋先生の講義が実施されるなど、受講者による活動と地域・活動の連携へと広げることができた。

▼ 実施の様子



トークセッションレポート

<https://shinnosuke0907.net/3118/>

1. 子どもの水辺安全セミナー報告ー2

(実施地域・団体と概要)

- ① 岐阜聖徳学園大学
場所：オンラインセミナー
日時：2021年6月29日
形態：大学の講義に登壇
参加者：200名（学生）
- ② 静岡県三ヶ日青年の家 学生ボランティア研修会
場所：静岡県三ヶ日青年の家
日時：2021/6/12
形態：講演
参加者：50名程度（大学生、職員）
- ③ 静岡県三ヶ日地区職員研修
場所：静岡県三ヶ日青年の家
日時：2021/8/2
形態：講義動画提供
参加者：100名程度
- ④ 長崎県大村市子ども安全管理講座
場所：オンラインセミナー
日時：2021/8/19
形態：オンラインセミナー
参加者：保育士・幼稚園教諭等65名程度

▼ 実施の様子



1. 子どもの水辺安全セミナー報告ー3

(実施地域・団体と概要)

- ⑤ 四條畷学園短期大学保育学科
特別セミナー
場所：
四條畷学園短期大学 木村ゼミ、オンライン
日時：9/21,25,28,10/5,12
形態：企画支援、講義担当、講義担当者アサイン
参加者：学生9名

概要：

今後保育士を目指す学生に対して、全5回の講義設計の支援、また一部講義の担当及び講義担当者のアサインを行なった。

子ども安全とは何か、実際の事故事例、水辺の活動で気をつけるべきことなどを伝えた。

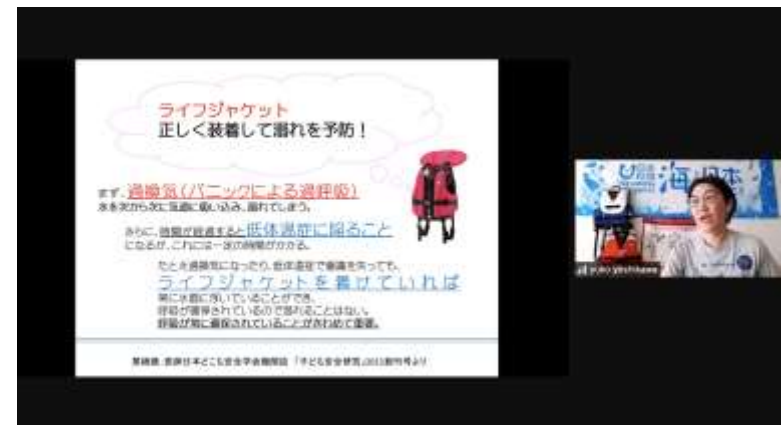
学生からは、さまざまな気づきの声が挙がった。

- ⑥ 西条市校長研修会 登壇
「子どもの水辺の活動と安全 事故事例から考える」
場所：愛媛県西条市
日時：2011/11/11
形態：講演
参加者：西条市内の市立小中学校 校長会

40名（小学校25校、中学校10校、教育委員会5名）

※ 校長会向けの講演は初実施

▼ 実施の様子





関連記事、メディア掲載リンク等ー 2

メディア掲載：●読売新聞（2021年7月8日）

子どもの水辺安全セミナーに関する取材記事

●読売新聞（2021年12月9日）

四條畷学園短期大学保育学科での講義

<https://www.yomiuri.co.jp/local/osaka/news/20211122-OYTNT50132/>



1. 子どもの水辺安全セミナー

参考：学生の講義参加感想文より

<四條畷学園短期大学保育学科>

- ・ 保育園などでライフジャケットの貸し出しをしているなど実際に行われている水遊びに対する対策を知ることができて良かったです。自分が就職する県ではどのような安全対策がされているのか調べてみたいと思いました。
- ・ 保育者になるうえで正しい知識を知っていないと子どもの命を奪ってしまう可能性がある。私は今回の吉川さんの講義を受けて、まずガイドラインを見ることから始めようと思います。そこで自分のためにも子どものためにも理解を深めたいと思います。

<岐阜聖徳学園大学>

- ・ 教師を目指す立場として、子供の安全を守るために海川に関する知識を学んでいきたいと思った。この講義で学んだことは、ライフジャケットをつければ、顔が出るため、改めてライフジャケットの大切さを学んだ。今後、吉川さんの知識を活かして子供の安全を守っていきたい。
- ・ 今まで子供が突然川に溺れてなくなったり自殺したりするなどのニュースが流れたり、実際、学校でそういった悲しい出来事を体験した中で、学校や国はそうした出来事が起きた後、何かその対策のために動いているのかと疑問を感じた。それと同時に我々もただそうした出来事を悲しいだけで終わらせず、そのようなことが起こらないようにしたいと思ったから。今までは命の大切さについて学んでいたが、今回の講義では命の価値、大切さを知ると同時に、生きることのすばらしさや身近なところにたくさんの危険が生じていることがわかった。また、そうした対策として、教師側がそのようなことが起きないための活動をやると同時に、そうした生きる術を知ることが重要であることが分かった。また、子供の命を守れるような立派な大人になりたいと感じた
- ・ まず、子どもの溺死は静かであることを初めて知った。何か抵抗したり、周りに知らせられると思っていた。今日はその固定概念を改められて本当に良かったと思う。
教師は子どもの命を守って当然であることを再確認することができた。私たちの責任は重く、大切なものであることに気づいた。
- ・ 教師は教育のプロではあるけれど、子供の安全を守るプロではないと感じた。しかしながら、教育活動の中には、子供の生死に関わるものもあり、子供の安全を守ることは救命士や消防士などと変わらないことにも気づいた。人の命を預かっているのも教師の仕事であるから、その責任を子どもの命を守るという自覚は必要だと感じた。

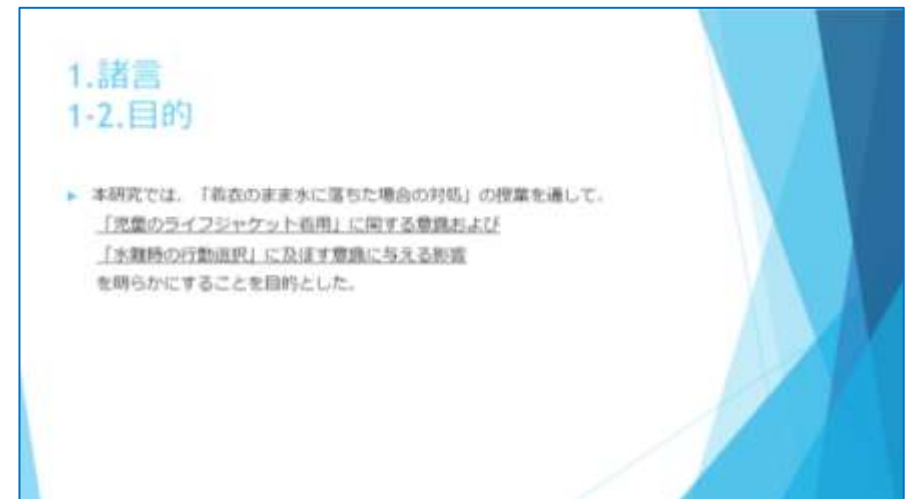
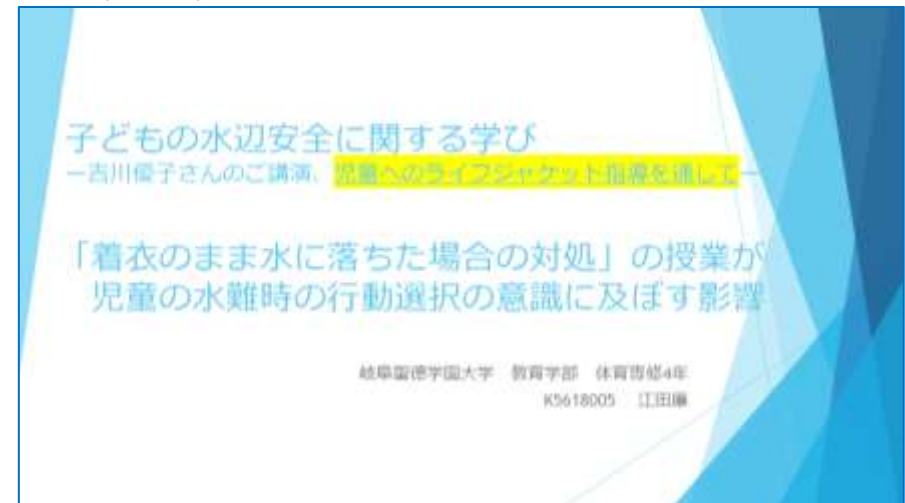
1. 子どもの水辺安全セミナー

参考：岐阜聖徳学園大学一講義参加学生研究資料

日本子ども安全学会第8回大会研究実践報告より

2021年9月25日開催 参加者：70名

<https://shinnosuke0907.net/3192/>



2. 子どものライフジャケット普及プロジェクト

2020年度に実施したライフジャケット普及検討委員会から、ライフジャケットの普及に必要なこととして、

- (1) 多様化するユーザーニーズに応じた情報提供と製品づくり
- (2) 着用する機会を社会のシステムとして増やしていくことが提言されました。

2021年は、上記の提言を推進するための取り組みを実施。

(1) については、学生という立場からの提案、(2) については、保育現場から保護者への啓発に主軸を置き検討を進めていきました。

<2021年度参加メンバー>

- ・ 吉川優子（一般社団法人 吉川慎之介記念基金 代表理事）
- ・ 吉川豊（一般社団法人 吉川慎之介記念基金 理事）
- ・ 株式会社キヌガワ AQA事業部
- ・ 武蔵野美術大学 学生（デザインチーム：さんにん（<https://www.sicf.jp/archives/sicf21/winnerslist/>））
- ・ 社会福祉法人 龍美 土橋園長

2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー1



株式会社 キヌガワ

<https://aqa.kinugawa-net.co.jp/>

RAC認定のキヌガワ（AQA）のライフジャケットは、安全に水辺の活動を楽しむアイテムとして様々な工夫がされています。専門的なご助言・ご提案をいただきました。

LIFE JACKET

ライフジャケット

大人でも子供でもどのような時でも、どのような場所でも、溺れる可能性があります。安全にマリンスポーツを楽しんで頂く為にライフジャケットを必ず身に付けましょう。

- ➡ ライフジャケット
- ➡ 救命胴衣
- ➡ ライフジャケットキッズⅢ
- ➡ ライフジャケットインファントDX
- ➡ スノーケリングジャケットⅡ
- ➡ スノーケリングジャケットジュニアⅡ

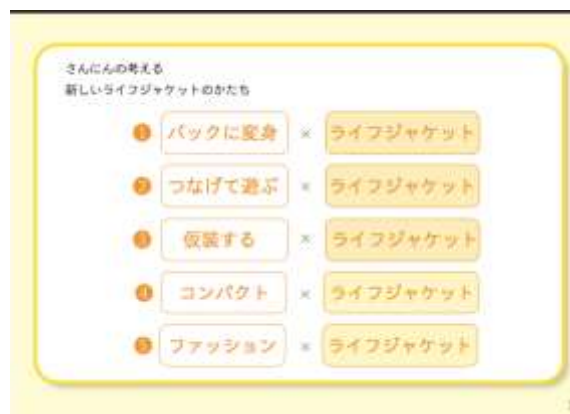
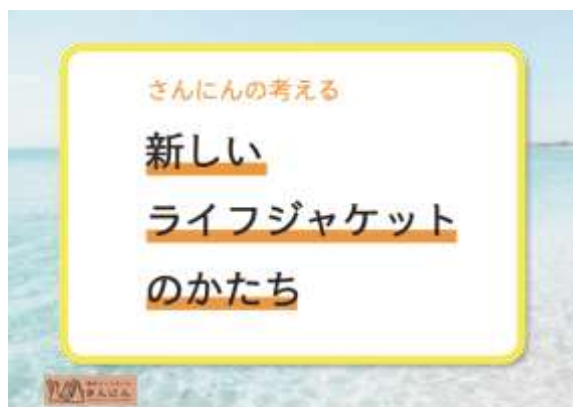
2022年度
子ども用ライフジャケット
新作が発表されます。

2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー2

<さんにん からの提案>

現代アートチームさんにんからは、水辺の活動を始めて考えるというデザイン・アートを学ぶ学生の視点から、子どもの「楽しい」と「安全」を両立するデザイン案を複数提示していただきました。

▼ 一部資料抜粋



2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー3

<提案された最終デザイン案>

「ユーザーニーズ」という点では、保護者アンケートで多く見られたライフジャケットが嵩張るというデメリットを、寿司ネタとしてポジティブに捉えた部分など、学生らしいユニークな発想から、子どものライフジャケット普及活動の視点への気づきが得られました。

学生アートチームさんには、水辺の活動や事故、ライフジャケットが身近な存在となり、自分たちの立場で考える機会に繋がったというご意見を頂きました。水辺に関する専門的な視点に加え、幅広く多種多様な人々が関わることで、理解の輪が広がっていく可能性を感じることができました。

▼ 製品イメージ



▼ パターン

○ マグロ



○ イカ



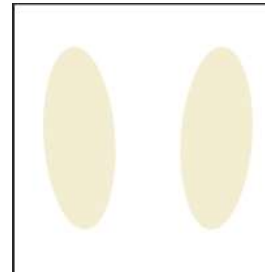
○ イクラ



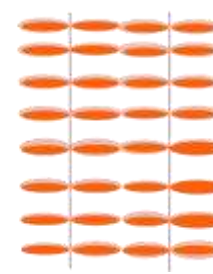
○ サーモン



○ タコ



○ エビ



○ タマゴ



2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー4

<DC EXPOにて東京大学 川原研究室 ヒアリングから得られた示唆>

- ✓ poimoはコンピューター上で人の体型や姿勢に合わせた形のカスタマイズが可能。
- ✓ 現状、どのような形でも作ることができる。
- ✓ 公道を走る場合の石などの破片にも耐えられる耐久性がある。
- ✓ 内側に糸を入れているため（右側写真）、空気を入れることによる物体の歪みを起こさないため安定性を保つことができる。
- ✓ 逆止弁がついているので簡単に空気は抜けない。空気を入れるのは簡単。

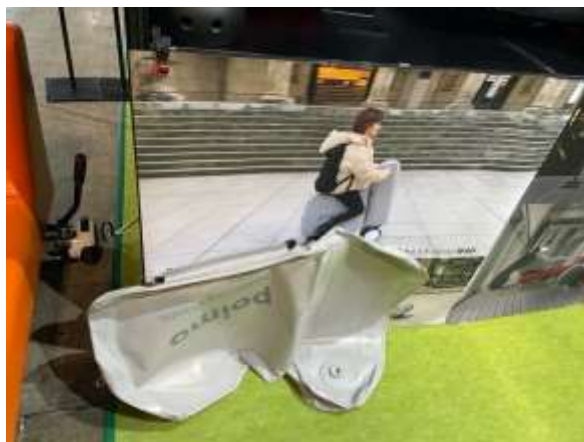
→ 糸によって形状を保つことができる、強度、小さく折り畳める、色や形が自由などライフジャケットにも転用ができそうなポイントを多く発見した。

→ また、パーツとして追加できるため成長による浮力の追加等も簡易であり、可能性を感じた。

●DC EXPO 2021.11.17-19（於：幕張メッセ）

PoimoWEBサイト

<https://poimo.akg.t.u-tokyo.ac.jp/home>



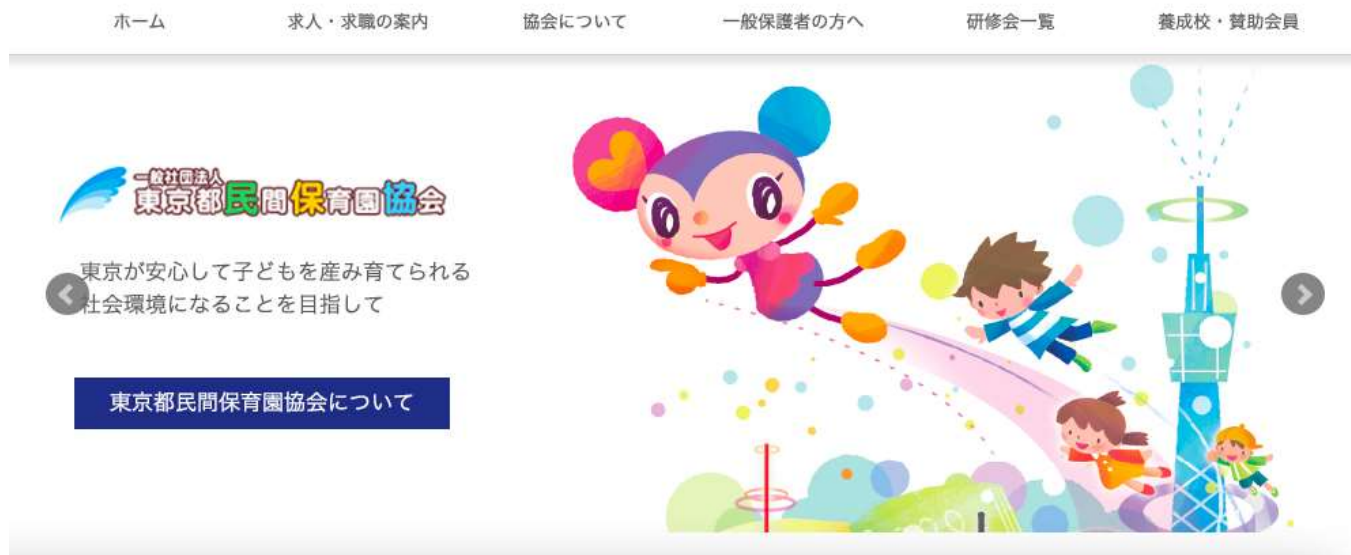
2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー5

(2) ライフジャケットを着用する機会を社会のシステムとして増やす

<状況>

土橋園長が理事として就任されている一般社団法人 東京都民間保育園協会において、保育園におけるライフジャケット普及に際し、ご協力をいただけることになりました。

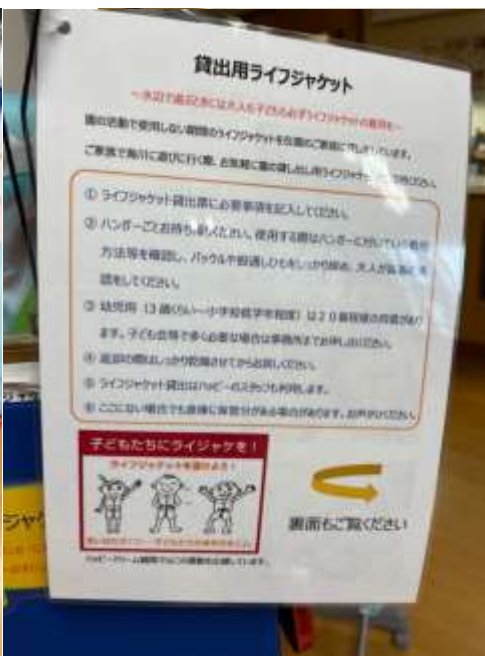
加盟する1200の園に向けて、機関紙でのライフジャケットに関する情報提供や保護者向けのポスターやチラシの制作・などを実施していただくことなどご検討いただいています。



※ポスターイメージ

(参考) 保育園でのライフジャケットの貸出 社会福祉法人龍美 ハッピードリーム鶴間

土橋一智先生より、社会福祉法人 龍美ハッピードリーム鶴間で子ども用ライフジャケットの貸出をご紹介いただいた。保護者の方へ子ども用と大人用のライフジャケットを無料で貸出。保護者の方の水辺の活動と安全に関する意識の変化・向上に繋がっています。



2.子どものライフジャケット普及プロジェクト報告ー6

現代アートを通じて

現代アートチーム「さんにん」さんから、自分たちの立場でできることとして、現代アートを通じて、子どもたちの命を守ることとライフジャケットの大切さを伝えたいという提案を頂きました。
古くなり使えなくなったライフジャケットを使用し、水辺に浮かぶ花をイメージした作品を制作。水難事故の再発防止とライフジャケットの重要性とともに、水の事故で亡くなった子どもたちの追悼の意もこめられています。

「みずのはなギフト」 紹介動画公開



youtube

<https://youtu.be/31JE9ciJLF4>



3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化

<実施概要>

子どもへの水難事故防止や水辺の活動について、教育の中で取り入れることも重要な課題です。

そこで、小中学生の保護者向け全国調査、各地域や団体、個人の活動を繋げるための、ネットワークづくりに取り組みました。

- ① 調査の実施（水辺の学習、および学校での安全教育について）
- ② 各活動団体、個人の可視化・ネットワーク化（取材記事等）

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー1

① 調査の実施（水辺の学習、および学校での安全教育について）

岐阜大学稲垣教授、日本ライフセービング協会教育本部長松本氏の協力を得て、水辺の安全学習に関する調査を実施した。調査では、学校での水難事故予防や水辺の教育の重要性・必要性が明らかとなった。

I. 調査概要 <https://shinnosuke0907.net/2989/>

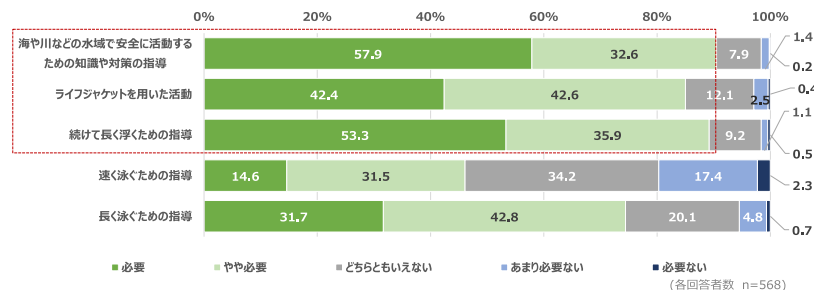
項目	内容
調査の目的	子どもと同居する保護者の、ライフジャケットや学校における水泳教育等に関する意識、実態を把握するために実施。
調査の方法	インターネット調査（定量）
実施対象	調査会社（インテージ）に登録するモニターのうち、以下の条件に当てはまる人を無作為に抽出して実施。 ・ 小学校1年生から中学校3年生の長子と同居している かつ ・ 日本国内に住んでいる25-50歳の女性
サンプル数	・ 長子が小学生の保護者・・・284サンプル ・ 長子が中学生の保護者・・・284サンプル
聴取内容	・ 今後、子どもと海や川に遊びに行きたいか ・ 海や川での事故に関する認識 ・ 学校教育における出師授業の中で必要だと思うことから ・ 海や川で遊ぶ際のライフジャケットの必要性に関する考え ・ ライフジャケットの着用方法等に関する自信の程度 ・ （属性情報）性別、年齢、居住エリア、同居する長子の年齢

4

① 学校の水泳教育の中で必要なのは「水辺の安全教育」

- ✓ 学校における水泳教育の中で必要だと思うことのトップは「海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導」。次いで「続けて長く泳ぐための指導」、「ライフジャケットを用いた活動」となっている。
- ✓ 「速く泳ぐための指導」や「長く泳ぐための指導」は上記3つと比較すると相対的に必要度は低く、「水辺でいかに安全に過ごすか」といったことへの要望が強い。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。

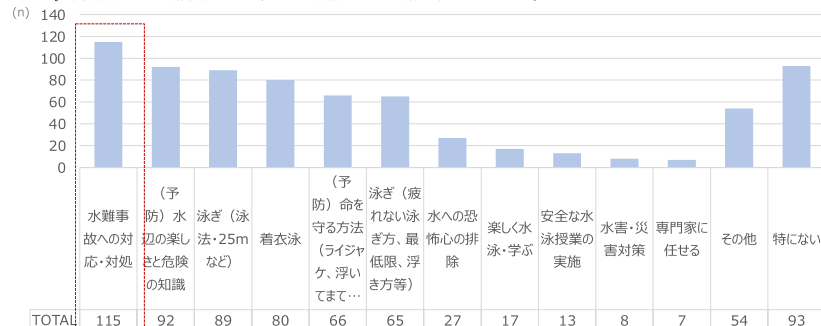


7

② 具体的に求めることは「水難事故への対応・対処」がトップ

- ✓ 具体的に学校の水泳教育に求めることを自由回答で得たところ、「水難事故への対応・対処」に関連する回答が他回答を大きく上回って多かった。25m泳ぐ、正しい泳法等、いわゆる泳法に関する教育は上位に挙がるものの、それ以外の回答はほとんど全て、「リスクへの対処」「未然に防ぐための知識」が占めている。

Q9 学校教育における水泳授業について、あなたが期待することを自由に記入してください。



8

※自由回答の内容をコーディング（＝類似した内容のカテゴリ化）。1つの文章に2つ以上のカテゴリが含まれる場合もあるためTOTAL数は回答者数と一致しない

③ 特に心配なことは、「知識不足やふざけ」による事故

- ✓ 自由回答の具体的な内容は以下の通り。（上位より4つ）

溺れないか

- ・ 溺れないか心配 子供は溺れると静かだから（30代、小5）
- ・ 泳ぐのが苦手な子供なので、溺れたりしないか心配。（40代、中2）
- ・ 溺れたら、早で見えないうちに、水の音でいなくなったことに気づかない（40代、中1）
- ・ うちの子は水に顔をつけるのもままならない状態なので、もし水に落ちてしまったら溺れてしまうかもしれないので心配。（30代、小3）
- ・ 人知れずおぼれること（40代、小1）
- ・ 着衣時に溺れないか（40代、中2）

水辺のリスクを子どもが理解していない、予測できない

- ・ 流れの早いところがあることを理解しない（40代、中3）
- ・ 川や海など、浅くても流れが速かったり、急に高い波が来たり、深くなっていたり、予期しない、出来ないことがあるかもしれないということ意識していない。（40代、中3）
- ・ 事故は一瞬で起きるという意識をどこまで理解してるか（40代、小3）
- ・ 川で遊ぶ時、流れが早いところにわざと行ってしまおう。（40代、小2）
- ・ 危険な箇所、状況だともまだ判断できない部分もあると思うので、予知察知できるかをまずは教えていきたいです。（30代、中2）

誤って落ちる、足を取られる等不慮の事故

- ・ 足を滑らせてたりして、落下しないか心配になる。（40代、小6）
- ・ 間違えて深いところまで行かないか不安（40代、中3）
- ・ 浅瀬でも足をとられて溺れることがあるのが怖い。（40代、中3）
- ・ 自然の中での水辺は、足を滑らせたり思いやらない状況になる可能性もあるため、心配（40代、中3）
- ・ 周りがよく見えていないので、深みにハマったり滑ることが心配。（30代、小3）

子どもだけで水辺に近づく／ふざける

- ・ 特に、友達同士だと、ふざけたり、羽目を外したり、調子に乗ったり、危険なことをしがちなので、子供だけで水辺に近づくことは、とても不安です。（40代、中3）
- ・ 子供だけで水辺で遊びにいってしまったら、と思う心配。（40代、小2）
- ・ 活動範囲が広がると、足が届かないところに行っていないか、何かトラブルは起こっていないか、など心配になる（40代、中1）
- ・ 友達とふざけていると危険な場所でも行ってしまいがち。（40代、小6）

11

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー2

②子どもの水難事故防止啓発 静岡県三ヶ日町

コロナ禍でも実現できる啓発活動を地域、団体等と連携を図りながら、啓発活動を実施しました。

◇実施地域・団体と概要◇

① 静岡県三ヶ日町

場所：三ヶ日青年の家「マリン体験」

日時：2021年7月11日

形態：イベントへの出展（豊橋子どもの命と安全を守る会共催）

参加者：上限100名

概要：ライフジャケットの普及啓発に関するブー氏出展。複数のライフジャケットを展示、手に取れるようにすることで来場者の関心を惹き、どこで購入できるのか等疑問に答えることができた。

▼ 実施の様子



3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー3

②子どもの水難事故防止啓発 神奈川県・鎌倉市

- ② 江ノ島電鉄へのポスター掲出
江ノ島電鉄の駅に「子どもたちにライジャケを！」ポスターを掲出

掲出時期：2021年6-9月（B2サイズ）

掲出場所：江ノ電各駅

※参考：

江ノ島電鉄前1日あたり平均乗降者数（2020年）

全駅合計約10万人

※掲載日数：91日間（6-9月）



3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー4

②子どもの水難事故防止啓発 神奈川県川崎市

NPO法人とどろき水辺の楽校

<http://www.todoroki.org/index.php>

2021年7月18日（日）

「川の安全教室」

於：多摩川河川敷 丸子橋下

http://www.todoroki.org/2021_report/2021_0718_01_report.php

配布資料提供

冊子「水辺の事故を減らすために、今できること」

50部

川崎市建設緑政局緑政部

多摩川施策推進課協働推進係

100部



子どもの水辺安全セミナーに関する読売新聞（2021年7月8日）掲載記事（再掲）から
NPO法人とどろき水辺の楽校さん、川崎市の活動へと繋がりました。

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー5

②子どもの水難事故防止啓発 北海道 下川町



北海道新聞
小学生新聞グランプリ チャレンジ賞
三浦かりんさん(上川管内下川町・下川小4年)



北海道新聞2021年10月27日
子どものライフジャケットレンタル
ステーション開設に向けた取組へ。

北海道下川町で子どものライフジャケット普及活動を始めた小学生（三浦かりんさん）から、北海道新聞主催の小学校新聞グランプリへチャレンジしたいとの連絡を頂き協力させていただきました。
「ひろがれ！命を守れ！ライジャケ新聞」チャレンジ賞を受賞されました。

https://www.hokkaido-np.co.jp/es-newspaper_gp26/challenge/

町内文化祭での三浦さん活動ブースに冊子を提供しました。
冊子「水辺の事故を減らすために、今できること」
100部

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー6

②子どもの水難事故防止啓発 愛媛県西条市

Love&Safetyさいじょうオンライン座談会 一夏の活動振り返り

日時：2021/10/3

参加者：LSさいじょうメンバー CROSSPOINT 久保氏 愛媛大学小佐井教授、NHK

ライフジャケットを着ていけば



子どもが犠牲になった事故は本当に多い。保護者の皆さんは子どもの命を守る対策を徹底してきてください。このようにしてはダメライフセービング活動のセミナーで、ライフジャケットの大切さを説きました。

「ライフジャケットを着用して泳ぐのは本当にいい習慣に思っています。見守りが減った。事故というものはどこにいても起こるものだから、必ず子どもにライフジャケットを着せよう。子どもが泳ぐときも必ずライフジャケットを着せよう。子どもが泳ぐときも必ずライフジャケットを着せよう。」



関連記事 2021年6月24日

NHK

<https://www.nhk.or.jp/matsuyama/insight/article/20210624-2.html>

加茂川マップの市内全小中学生への配布・啓発

配布対象：35校（児童・生徒数8000名程度）

イラスト制作：CROSSPOINT 久保氏

西条市広報誌 取材協力

<https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/citypromo/koho202107.html>

西条市では2012年に発生した吉川慎之介君の事故の教訓をいかす取組が自治体・市民レベルで広がっています。

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー7

②子どもの水難事故防止啓発 香川県坂出市



The screenshot shows the official website of Sakai City. The header includes the city logo and navigation tabs for 'Life', 'Child Education', 'Safety', and 'Municipal'. A search bar is present. The main content area is titled 'ライフジャケットレンタルステーション開設について' (About Life Jacket Rental Station Opening). It includes a sub-header 'ライフジャケットレンタルステーションの開設について' and a paragraph explaining the project. A photo shows a group of people at an event. Below the photo is a section titled '貸出するライフジャケットについて' (About Life Jackets for Loan) which lists sizes (S, M, L) and their corresponding age ranges. At the bottom, there are links to PDF files for borrowing procedures and safety information.

坂出市
Sakai City Website

Foreign languages 香川県語 文字サイズ

暮らし・手続き 子育て・教育 安全安心・相談 市政

キーワードでさがす Google 検索

トップページ > 子育て・教育 > スポーツ > ライフジャケットレンタルステーション開設について

ライフジャケットレンタルステーション開設について

印刷用ページを表示する 更新日：2021年7月21日更新

Twitter Facebook LINE 印刷用ページ

ライフジャケットレンタルステーションの開設について

この度、Sakaide Lifejacket Santa Project標より子ども用ライフジャケットをご寄贈いただき、ライフジャケットを無料で利用できる「ライフジャケットレンタルステーション」を坂出市府中蔵力スポーツ健康研修センターに開設しました。

坂出市内に在住、在学する子どもの保護者や市内団体の皆さま、周や川など子どもが水辺に近づく活動には、このライフジャケットを是非ご活用ください！



貸出するライフジャケットについて

ライフジャケットのサイズ（子ども用）

- Sサイズ 5着（推奨身長 90～100cm）
- Mサイズ 6.5着（推奨身長 100～120cm）
- Lサイズ 3.8着（推奨身長 120～140/150cm）

貸出対象

坂出市内に在住、在学する幼児、児童、生徒の保護者または引率・監督する団体

※ 案内チラシ [PDFファイル/412KB]

※ ライフジャケット貸出要領 [PDFファイル/346KB]

※ 正しいライフジャケットの着脱方法 [PDFファイル/330KB] 引用：子どもたちにライフジャケットを！

※ Love&Safety 子どもの安全増進～水辺の事故を減らすために、今できること [PDFファイル/3.67MB]

香川県坂出市

子ども用ライフジャケットレンタルステーション

2021年7月スタート

坂出市教育委員会へ冊子寄贈 3000部

レンタルステーションでの活用

ライフジャケットをレンタルされる方、市内の保育・学校施設等へ配布していただきました。

3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー8

②子どもの水難事故防止啓発 長崎県

NBC長崎放送

<https://www.nbc-radio.jp/radio/lifejacket-project2021/>

こどもたちのためのプロジェクト

2021SUMMER LIFE JACKET



3) 団体・地域活動のリサーチ及びネットワーク化 報告ー8

②子どもの水難事故防止啓発 東京都～全国



<https://www.facebook.com/JBWSS/posts/1535927296743583/>

2020年に開催した「水辺の活動～安全教育と啓発に関する意見交換会

(<https://shinnosuke0907.net/2731/>)」から、日本水上安全・安全運航サミット(JBWSS: Japan Boating & Water Safety Summit)主催「水辺の安全ネットワーク会議ーWEAR IT! + オンラインイベント」へと繋げることができました。

国土交通省海事局、海上保安庁など関係省庁他、民間15団体・企業などが参加し、共通テーマであるライフジャケットの重要性を発信しました。

Youtube: <https://youtu.be/tTUZLOd2y88>

3) 活動団体のリサーチ及びネットワーク化 報告ー9

②各活動団体、個人の可視化・ネットワーク化（取材記事等）



海と日本プロジェクト、海のそなえ推進プロジェクトの協力を得て水辺で活動する団体のネットワーキング等をすすめることができました。

子どもの水辺安全セミナー 海と日本プロジェクト2021

幼児教育の現場から発信する水辺の安全～楽しく安全な水遊びをどう伝えるか～

<https://sonae.uminohi.jp/n/n4b83343637c0?gs=9d3c1ac39096>

夏本番前に知っておきたい知識が盛りだくさん！5/16開催の「熱中症＆水難事故は予防できる！」セミナー

<https://sonae.uminohi.jp/n/n6a7a90d22e1f>

株式会社キヌガワ AQA事業部

キヌガワさんにライフジャケットのイロハ、教えてもらいました！

<https://sonae.uminohi.jp/n/n4f6f26ecbd86>

菅原一成氏（公益財団法人河川財団 子どもの水辺サポートセンター 主任研究員）

川の楽しさとリスク、その両方を知る大切さを伝え続ける河川財団・子どもの水辺サポートセンターとは？

<https://sonae.uminohi.jp/n/nad6eecbc3d55>

細川由梨氏（早稲田大学スポーツ科学学術院准教授）

「ベストアイテムは粗品のタオル」熱中症研究の専門家に聞いた、海辺での対策＆予防方法

<https://sonae.uminohi.jp/n/nf93bac9e0a58>

浅田佳津雄氏（株式会社ウェザーニューズ スポーツ気象チーム）

「知っていれば守れる命がある」。気象データを扱うプロフェッショナルに天気を味方にそなえる習慣の大切さを教えてもらいました！

<https://sonae.uminohi.jp/n/nf50feb154383>

2021年一活動総括

<子どもの水辺安全啓発―地域・団体・個人の連携>

- ・ セミナーを通じて教員・保育士を目指す学生たちと共に考える機会を頂き、次世代に繋げていく活動の重要性を実感しました。
- ・ 各々の地域・団体が、コロナ禍でも可能な限り体験活動・教育を重視し、水難事故防止に関する啓発活動をオンライン等も活用し積極的に実施する状況が見られました。
- ・ 事故の教訓をいかす取組が全国で実施されているなかで、事故の当事者や関係者が様々な思いを寄せて活動に参加されました。思いをかたちにしていくことをこれからも繋げていきたいと思います。

<ライフジャケットの普及促進>

- ・ 2020年度に実施したライフジャケットの検討会で明らかになった課題について、2021年度は具体的に広げていくための方策を模索しました。
- ・ 水辺の活動と安全を学ぶ機会、そして、ライフジャケットの着用機会を社会のシステムに組み込まれることによって、多くの人に海や川などの素晴らしい魅力とともに、水辺の活動と自然との共生の理解が広がっていくことを期待しています。
- ・ 保育・幼稚園団体などから水辺の活動と安全についてライフジャケット着用啓発がスタートする機会に繋がったことや、学校等での教育システム構築に関しては、令和4年度のスポーツ庁の概算要求でライフジャケットを取り入れた水泳授業での安全教育に関する予算が計上されたことは大きな前進です。